

(様式1)

自己評価票

作成日 平成28年8月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871900460		
法人名	有限会社 幸		
事業所名	グループホーム きらり	ユニット名	ほしぞら
所在地	〒300-1217 茨城県牛久市さくら台3-34-10		
自己評価作成日	平成28年4月1日	評価結果 市町村受理日	平成28年9月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0871900460-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年5月26日	評価機関 決 済 日	平成28年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>広い庭に四季折々の花木が楽しめる広い庭があり、飼い犬や飼い猫も癒しの提供に努めている。運営理念を基に、地域密着型施設として地域の中で孤立せずに暮らし続けられるよう、また利用者個々の個性や暮らし方を大切にして日々支援している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は牛久市内の閑静な住宅街に隣接し、近くには大きな運動公園もある静かな環境となっている。</p> <p>建物の前庭にある日本庭園は、利用者や訪問家族等の気持ちを和らげている。</p> <p>管理者は事業所設立時から勤務しており、職員も介護経験が豊富である。</p> <p>職員は出勤時に「ただいま」と入り、出かける時には「行って来ます」と自然に声を出し、事業所が一つの家庭のようになっている。</p> <p>事業所の庭の犬小屋には開設以来の老犬がいるほか、玄関には2匹の猫がおり、犬も猫も嫌いな人もいるので、リードで移動範囲を制限しているが、利用者や来訪者、職員の癒しとなっている。</p> <p>協力医療機関の訪問診療が受診できることや、医療機関や看護職員と24時間連携体制がとれていることで、利用者や家族等の安心につながっている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型施設としての運営理念を基に、その意味合いに沿った支援ができるよう、職員間で理念の共有をしている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の体操への参加や、夏祭り開催を近隣住民にも伝え自由にご参加いただいている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームについての必要な説明、認知症についての相談がある時は随時対応する。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で利用者の状況やホーム内の出来事などについて報告する。行事開催の打ち合わせもその場で行っている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特別な事例についての対応など、事業所だけでは解決できない問題がある時は随時相談している。運営推進会議に参加していただき情報や意見をいただいている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行わない。身体拘束に当たる行為であると思われる内容については皆で話し合い、適切な対応で支援できるよう統一する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待に当たる行為について理解を持ち、職員間でお互いに厳しい眼で見ないようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に活用できるよう、市などで開催されている研修会に参加し知識を得るようにしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時をはじめ、その後もその都度必要な説明を行い、意見や要望がある時には解消できるよう努めている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご意見用紙を送付し、意見や要望がある時にはできる限り柔軟に対応するようにしている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議開催時に、業務内容等運営に関する意見を出す時間があり、改善の必要がある場合は皆で話し合い決めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境についての相談には出来る限りその都度柔軟に対応している。個々の悩みなどとも言いやすい環境となるよう、普段から聞く耳をもつようにしている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤者は外部研修への参加に機会をもうけ、非常勤者は会議時に必要な情報を得ることができるよう、テーマを決めて研修会をしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の意見を聞きたい時や相談事がある時は、随時電話連絡をしている。他グループホーム開催の交流会に参加させていただいたり、市内の事業所が集まる研修会に参加し情報を得る。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの段階で希望や要望を引き出すことはもちろんであるが、生活の中で接していれば自然と課題はつかめ、関係は作られていくものと思われる。職員個人で得た情報や気づきを、職員間で共有するようにしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に希望は伺うが、その後も家族からの随時の希望や要望には出来る限り応えることができるように努めている。また、言いやすい(話しやすい)環境となるよう努めている。今では、ほぼ毎日面会に来られる家族と職員が、ホームの話以外にも世間話をするような関係にまでなっている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、入居してからも随時柔軟に対応するようにしている。そのために個々に必要な社会資源の関係者と連携をとるようにしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全ての方とは言えないが、その人の力量に合わせ、その人の力を発揮できる場を作るようにしている。職員が経験していない時代の話や、昔ながらの方法などを聞き出したりする。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない支援、役割があるので、負担にならない程度に必要時は相談するようにしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問しやすい雰囲気や環境作りに努めている。本人や家族の希望により必要に応じて外出の支援をしている。(敬老会への参加など)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を見極め落ち着いて過ごすことができるよう配慮している。その時により感情の変化が著しい方に対するフォローは難しいため職員間での協力が必要である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も何かの相談事がある時はできる限り対応する。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	共に暮らす中で見えてくる課題や希望を把握、職員間で共有し、より良いと思われる支援となるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族、担当ケアマネより必要な情報をいただき把握している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はその人の状態や状況を日々観察し、日誌や連絡ノート、会議にて情報を収集している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で得た情報や課題、家族からの希望や要望等を会議の場に出し合い、ケアプランに繋げている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子や介助内容等を記録し、連絡ノートや申し送りで情報を共有、支援に活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望や希望に対し出来る限り柔軟に対応するようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人に合わせた楽しみごとの支援をする際や、安全な生活を送っていただくため、それに地域資源が必要な場合は調べ活用している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人、家族の希望で決めている。なじみのかかりつけ医にかかっている人、ホームでの往診にかかる人、必要に応じて他科受診する人様々である。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気づいた入居者の変化や医療に関する疑問などをホームの看護師に相談し、指示通り適切に対応するようにしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は必要な情報交換を行っている。どこまでの治療が必要であり希望するのかを、病院や家族と相談するようにしている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や看取りについて書面にて伝えている。実際にその時期を迎えることが予測される場合、またはその時期を迎えた際は、ホームでできることできないことなどを随時相談し、看護師や医療機関と連携をとる。家族の意見が変わった場合にもできるだけその時の要望に応えることができるよう柔軟に対応する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応のマニュアルがあり、申し送りや会議の場などで対応の統一を図っている。感染症流行の時期には対応の統一を図ることができるよう、会議などで話し合いをするようにしている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難誘導訓練を実施し、地域の方にも参加していただいた。災害時には通報することにより市や消防署、地域の消防団の協力を得ることができる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人ができること、できないこと・その人にとっての向き不向きを把握した上で、それぞれに合った家事作業などをお願いし、少しでも早く片付けられたり、上手くできた時には感謝の気持ちをもって本気で誉めるようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「はい」「いいえ」の言葉のみで判断せず、表情も見ながら本人の思いを汲み取るようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活ペースに合わせ必要な支援をするよう心がけている。生活の流れを作るためにある程度誘導しなければならない方も、本人がなるべく嫌な思いをしないよう配慮しながら支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに気を使う方、全く気にしない方それぞれだが、したくてもできない方も清潔さを保つことができるよう必要な支援をしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備、調理、盛り付け、配膳、片付けなど、その人のできる範囲で家事作業に関わっていただくようにしている。普段メニューは決まっているがスタッフメニューの日は普段食べられない生物や好みのメニューを考え提供している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成するメニューを取り入れており、摂取量を把握している。歯の状態、咀嚼、自助具や食器など、その人に適したものを工夫して提供するようにしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけを行い必要な支援をしている。昼食後のうがいには風邪予防のためお茶を使用している。必要に応じ介助を行い、希望により専門家による口腔ケアを受けていただいている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	歩行できる方、つかまり立ちができる方にはできる限りトイレで排泄していただくようにしている。各自の体調に合わせた時間を考慮して排泄を促している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し便秘になりつつある人は早めに対応するようにしている。牛乳を摂取してもらう、運動してもらう、散歩に連れ出す…など
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大まかな入浴時間帯は決めざるを得ないが、唯一1対1でゆっくり関わられる時間なのでせかさずにその人のペースで入っていただけるよう配慮している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中がんばり過ぎでストレスを溜めてしまう方は適当に休息がとれるよう声かけ支援している。夜間、精神不安で寝付けない方には不安な原因を探り、できるだけ早く安心感を取り戻していただけるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要時に服薬内容の確認ができるよう事務所にお薬カードのファイルがある。日常的に個人の状態を把握し医師、看護師に報告、必要時指示を仰ぐ。毎食、服薬担当者を決め責任をもって与薬する。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力や体力に合った家事作業への参加声かけ、個人が楽しめる手工芸やゲーム、音楽鑑賞を考え、参加声かけを行う。普段、何もやる気が無いように見える方でも物によって興味を示して下さることがあったり、またその逆もあるため、変化を見逃さないよう気をつけている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物同行や犬の散歩同行などの機会を作り声かけをしている。本人や家族の希望があれば本人にとって特別な場所へ出かける機会も出来る限り作ることができるよう体制を整える。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の金銭保管については入居時に本人、家族と相談している。ホームでお預かりしている小遣いは出納帳につけ毎月報告している。スーパーや病院で自力で支払いされる方、お金に全く興味の無い方、日々札束を数える方など様々であるが、必要に応じて支援している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>遠方の家族より連絡が入る方がおり会話を楽しむことができるよう支援している。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング内の清掃は毎日行い生活感を保つようにしている。食事の時間はテレビを消し食事に集中し気分良く食べていただくことができるよう、軽音楽などを流している。季節の花々をテーブルに置き季節感をもつていただくようにしている。行事や思い出の写真を掲示し鑑賞していただいている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う人と自席で会話を楽しむ方、会話に疲れてソファで気楽に過ごす方、廊下の窓際に日向ぼっこをする方…</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人にとって使い慣れた物、思い出のある物、思い出のある物などを持ち込んでいただき部屋を作ってもらっている。本人の身体状態の変化に合わせて家族とも相談しながら安心、安全に過ごせる空間となるよう工夫している。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な場所に手すりがあり室内には段差が無い。トイレなど必要な箇所には目印をつけている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない